

西諸広域行政事務組合の概要

西諸広域圏域の概要

本圏域は、宮崎県の中西部に位置し、東は西米良村・綾町・宮崎市高岡町、西は鹿児島県、南は都城市、北は熊本県に接した地域で、東西47km、南北31km、面積931.25km²であり、中心市である小林市は宮崎県庁所在地から46km、宮崎空港及び鹿児島空港から1時間内に位置する。

気候は、夏期に暑く冬期に冷え込む典型的な温暖湿潤気候で、四季の変化に富んだ自然豊かな環境である。

河川は、小林市とえびの市を境として大淀川水系と川内川水系にわかれ、東部は、小林市須木から本庄川及び浦之名川が綾町を貫流し、小林市から岩瀬川が小林市野尻町と都城市高崎町を貫流、高崎川が高原町に端を発し、それぞれ下流の大淀川に注がれている。

西部は、川内川が九州山脈を源にして、えびの市の中心部を流れ鹿児島県へと注いでいる。

周辺の山岳地帯は、森林資源が豊富で多量の林産物を産するほか、霧島錦江湾国立公園の「えびの高原」、火口湖として知られる「御池」、自然美の景観を誇る「大幡山周辺」、県立公園の「矢岳高原」、人造湖の「岩瀬ダム湖・綾南ダム湖(小野湖)」、全国名水百選に選ばれた「出ノ山湧水群」、その他「京町温泉郷」など観光資源も豊富である。

また、岩瀬川的小林市と小林市野尻町境には絶滅危惧種の水草「オオヨドカワゴロモ」が世界唯一自生している。

交通網は、JR吉都線・JR肥薩線・国道221号線・国道223号線・国道265号線・国道268号線が縦横を走り、食糧供給基地としての流通拠点でもある。

また、高速自動車道は、えびのIC、小林IC及び高原ICの3か所のインターチェンジを有し、「宮崎県の西の玄関口」としても、重要な拠点となっている。

(令和6年12月31日現在)

圏域内における人口・世帯の推移

本圏域の人口は、昭和30年頃には12万人を超えていたが、その後毎年減少し、国勢調査人口で昭和50年90,754人、昭和55年92,792人、昭和60年94,242人と各構成市町村でも微増で推移していたが、平成2年の国勢調査人口では92,290人と小林市を除く他の市町村は減少しはじめ、平成7年の国勢調査人口では90,319人、平成12年の国勢調査には87,857人、合併後の平成22年の国勢調査では79,876人、令和2年の国勢調査では69,947人と7万人を割り込み、全構成市町で年々過疎化、少子化により減少している。

一方、世帯数については国勢調査の昭和50年26,647世帯、昭和55年28,530世帯と年々増加してきており、昭和45年国勢調査時1世帯当たり平均3.7人家族が、平成2年国勢調査では、1世帯当たり平均3人弱となり、令和2年国勢調査では1世帯当たり2.2人と著しく核家族化が進んできている。

市町村名	平成17年 国勢調査人口	世帯数	平成22年 国勢調査人口	世帯数	平成27年 国勢調査人口	世帯数
小 林 市	38,923	14,935	48,270	19,576	46,221	19,498
(旧野尻町)	8,670	3,261	※平成22年3月23日 小林市と合併			
(旧須木村)	2,227	883	※平成18年3月20日 小林市と合併			
えびの市	23,079	9,148	21,606	9,078	19,538	8,568
高 原 町	10,623	4,070	10,000	4,042	9,300	3,914
合 計	83,522	32,297	79,876	32,696	75,059	31,980

市町村名	令和2年 国勢調査人口	世帯数	面積 km ²
小 林 市	43,670	19,162	562.95
えびの市	17,638	8,050	282.93
高 原 町	8,639	3,763	85.37
合 計	69,947	30,975	931.25

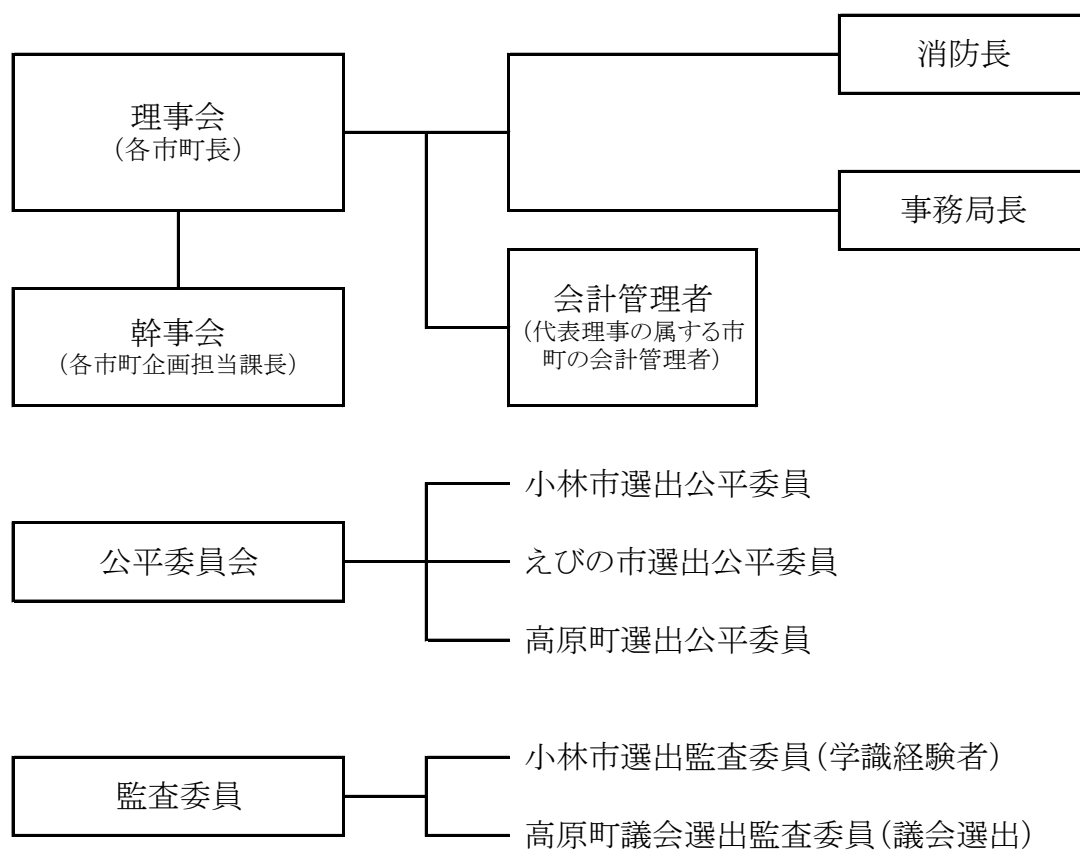
西諸広域行政事務組合の事業と組織

共同処理する事務

1. 関係市町職員の合同研修に関すること。
2. 消防及び救急業務に関すること。(消防団の運営に関する事務を除く)
3. 西諸広域葬祭センターの設置及び管理運営に関すること。

組 織

西諸広域行政事務組合機構図



議決機関

西諸広域行政事務組合議会(構成市町議会議員・議員定数11名)

